海外がん医療情報リファレンス by JAMT

NEWS LETTER



2020.4 - 2021.3 Vol.12

一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ 〒163-1030 東京都新宿区西新宿 3 - 7 - 1 新宿パークタワーN30階 https://jamt-cancer.org/ TEL 03-5326-3432

社会変容とこれからのがん情報

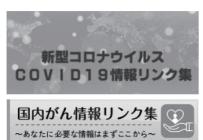


【2021年1月16日 JAMT特別セミナー】

Vol.12 2020.04-2021.03

1. ごあいさつ	P1
2. 「海外がん医療情報リファ 活動 [:]	レンス」 報告······P2
3. がんセミナー・字幕翻訳勉	強会······P4
· 适	·············P6] 村 光 栄 先 生 遠 藤 誠 先 生 豸 尾 崇 先 生
佐	・・・・・・・・・・P8 る万里子さん で々木亜衣子さん 」合 加 奈 さん
6. 副理事長から	Р9
7. スタッフから	·····P <u>1</u> 1
8. 事務局からのお知らせ 9. 組織概要	P12

10. 協賛企業





1. ごあいさつ

世界的なコロナ禍の中、がん診療にも影響が出ています。感染症はがん診療においても問題となる合併症です。しかし、手洗い、口腔ケア、マスク着用、人との距離をとる等の対策を徹底することで通常どおりのがん診療が可能だと思います。感染対策の徹底でコロナ以外の感染症が減る可能性もあります。

コロナ対策の国毎の違いによって罹患率、死亡率に大きな差がみられています。がん対策、コロナ対策共に各国の状況を知り、真に有効な対策を行っていくことが重要でしょう。

JAMTでは、がん、コロナに関する信頼性の高い情報を提供しています。本年もご支援のほど、何卒よろしくお願いいたします。

一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ 理事長 久保田 馨

2. 『海外がん医療情報リファレンス』活動報告

2020年 2月	28 🖯	抄読会「転移再発乳癌のホルモン療法」skype 授業 講師:原 文堅先生(がん研究会有明病院 乳腺センター乳腺内科)
3 月	31 ⊟	海外がん医療情報リファレンス内に「新型コロナウイルス情報リンク集」を作成。 (国内外の新型コロナ情報サイトへのリンクおよび発信記事を掲載)
		『COVID19 医療翻訳チームからの発信(米国疾病対策センター(CDC)、世界保健機関(WHO)和訳チェック/医療者向け)』にボランティア翻訳者 6 名が協力
		IBTA(国際脳腫瘍ネットワーク)の月刊 eNewsを和訳してJBTA(日本脳腫瘍ネットワーク)に 提供3月号〜毎月継続中。コロナ禍の脳腫瘍患者アンケート調査和訳。
5月		大須賀覚先生(アラバマ大学バーミンガム校 脳神経外科)、勝俣範之先生(日本医科大学武蔵 小杉病院 腫瘍内科)のコロナ関連翻訳への協力
6 月		WHO 神戸へのコロナ関連翻訳協力
7月	11 🖯	JAMT オンラインがんセミナー 講師:上野直人先生(MD アンダーソンがんセンター 乳腺腫瘍内科/ Morgan Welch 炎症性乳がん研究所所長) 講師:下村昭彦先生(国立国際医療研究 センター 乳腺腫瘍内科) 講師:中村能章先生(国立がん研究センター東病院 消化管内科) 講師:高濱隆幸先生(近畿大学奈良病院 腫瘍内科) 講師:喜安純一先生(飯塚病院 血液内科)
8月		世界卵巣がん憲章の和訳を『卵巣がん体験者の会スマイリー』に提供
9月		国際ニュース通信社ロイターのがん関連記事を期間限定で試験的に翻訳
10月		IBTA 脳腫瘍患者憲章和訳を JBTA に提供
		IKCC(国際腎がん連合)患者アンケート調査和訳チェック IKCC 患者サミット 2020(10 月 29 日~ 11 月 30 日まで全 4 回)に、患者会『avec(アベク)』が 初めて日本から参加、JAMTが協力
		字幕翻訳勉強会【基本編】10月31日【実践編】11月21日 講師:寺田真由美先生/JAMT字幕指導 映像翻訳者
11月		「治療を検査する」(Testing Treatment)日本語版 PDF がコクランジャパンより公開
2021年 1月		患者さん向け『国内がん情報リンク集』をがんリファサイトに公開(有志翻訳者) JAMT 特別がんセミナー 講義および抄読会 講師:清水研先生(がん研究会有明病院 腫瘍精神科)

ボランティアサイトでのがんの情報提供「海外がん医療情報リファレンス」主な英文記事の発信元

- ●米国国立癌研究所(NCI)- NCIニュース、ファクトシート、薬剤情報(A-Z)
- ●FDA ニュース 新薬承認と安全性報告
- ●学会ニュース 米国臨床腫瘍学会(ASCO)、欧州臨床腫瘍学会(ESMO)、米国癌学会(AACR)のプレスリリース
- ●大学/施設ニュース MDアンダーソンがんセンター、ジョンズホプキンス、スローンケタリング、ダナファーバーがん研究所
- ●英国医療サービス(NHS)、キャンサーリサーチ U.K
- ●ロイターヘルス (期間限定)

パンデミックに伴う他団体への協力

- ◆『COVID19 医療翻訳チームからの発信(米国疾病対策センター(CDC)、世界保健機関(WHO)翻訳情報/医療者向け)』に CDC 和訳チェックにボランティア翻訳者 6 名が協力
- ◆IBTA COVID19 禍における脳腫瘍患者アンケート調査
- ◆大須先生、勝俣先生のコロナ関連翻訳への協力
- ◆WHO 神戸 CDC マスクー次翻訳

日本の患者会と世界の絆

●国際腎がん連合 (IKCC: International Kidney Cancer Coalition) に 日本の再発転移治療中の腎がん患者会『avec (アベク)』が参加





数年に渡って協力してきた IKCC の国際腎がん患者サミット 2020 に、日本の 再発転移治療中の腎がん患者会『avec』より 3 名の参加が叶い、JAMT より野中が補助参加しました。 会合(セミナー)は、コロナのため当初予定されていたシンガポールではなく、 オンラインで 10 月 29 日、11 月 7 日、11 月 19 日、11 月 30 日の 4 回に分けて行われました。 2019 年ノーベル医学賞受賞者 William G. Kaelin 医師の講演他、免疫療法薬の効果や副作用、コロナの影響など、同時通訳をはさみ、たくさんの講義を日本語で聴講できました。

● IBTA(国際脳腫瘍ネットワーク)月刊 e-News 日本語版を JBTA(日本脳腫瘍ネットワーク)に提供





2020年3月号より翻訳を開始、毎月翻訳して JBTA の会員の皆様に提供しました。 担当スタッフ:相澤里咲協力翻訳者:会津麻美、坂下美保子、渡邊岳、伊藤彰、佐々木亜衣子 JBTA 月刊ニュースレターは JBTA サイトに掲載。

●IBTA 脳腫瘍患者権利憲章の和訳

- **●卵巣がん患者会スマイリー 「世界卵巣がん患者憲章」の和訳**
- ●横浜こどもホスピスプロジェクト 海外の案内等翻訳

ほか

学会参加報告(オンライン)

第79回日本癌学会学術総会

10月1~3日(JAMT 会員 2名以上 参加)

第 28 回日本乳癌学会学術総会

10月9~18日(JAMT 会員2名以上参加)

第 58 回日本癌治療学会学術集会 PAL

10月22~23日 (JAMT 会員6名以上参加) 寺田真由美氏、野中希氏がポスター(スライド)発表 (佐復純子、粟木瑞穂、平沢沙枝連名)

第61回日本肺癌学会学術集会 患者・家族向けプログラム

11月12~14日(JAMT 会員 2名以上参加)

第 30 回日本乳癌検診学会学術総会

11月22~23日(JAMT 会員1名 登壇)

San Antonio Breast Cancer Symposium

12月8~11日(JAMT会員1名参加)

American Association of Cancer Research (AACR) 2020 4月27~28日、6月22~24日(JAMT会員1名以上参加)

American Society of Clinical Oncology (ASCO) 2020

5月29日~31日(JAMT会員4名以上参加)

『癌の臨床』に掲載されました

日本癌治療学会が発行する『癌の臨床』Vol.65 No.3 2019 に野中希氏の「ASCO 帰朝講演(参加準備や渡航関係、2 年間の学び)」と、2019 年学会 PAL で優秀賞を受賞したポスター発表をまとめた「海外がん情報提供ボランティアサイトの運営から見た日米がん情報の比較」の 2 報が掲載されました。



3. がんセミナー・抄読会・字幕翻訳勉強会

JAMT オンラインがんセミナー

●がんセミナー

日 時:2020年7月11日(土) 12:00 ~ 14:00

新型コロナウイルス緊急事態宣言後、「ASCO2020」 をテーマとして、初めてオンラインでのJAMTがんセ ミナーが開催されました。上野先生からはMDアン ダーソンがんセンターの施設紹介やCOVID-19の状況 について、また各先生からは ASCO2020 プレナリー セッションならびに先生方のご研究について貴重な お話をいただきました。東京だけでなく、世界の各 地域からJAMT監修者、翻訳者、会員の方々60名以上 が集う国際的なオンライン会議となりました。

講 師:上野直人先生

MDアンダーソンがんセンター乳腺腫瘍内科 Morgan Welch 炎症性乳がん研究所所長

テーマ: 「Current Status of COVID-19 in Texas& MDアンダーソンがんセンターについて」







講 師:下村昭彦先生

国立国際医療研究センター 乳腺腫瘍内科

テーマ:「初発 IV 期乳がんにおける原発巣切除の

意義 + α」について



講師:中村能章先生

国立がん研究センター東病院 消化管内科

テーマ:「MSI-H/dMMR 大腸がんに対するペムブ ロリズマブ/リキッドバイオプシーを用い た大腸がんの治療開発 (SCRUM Japan の 取組み)」





講師:高濱隆幸先生

近畿大学奈良病院 腫瘍内科

テーマ: 「肺がん診療 2020 年のおさらい! +今、私が興味を持っているトピックス

のご紹介」

演題を通して重要な用語、コンセプトを共有 JAMT オンラインがんセミナ



講師:喜安純一先生

飯塚病院 血液内科

テーマ:「多発性骨髄腫治療における ENDURANCE

試験の位置付け(ASCO2020)」





●医療翻訳 Q&A

日 時:2020年7月11日(土)

14:00~14:30

セミナーの後は、翻訳についての議論が積極的に 交わされました。患者さん、一般向けに分かりやす い言葉で発信するにはどうしたらよいかなどたくさ んのご意見を頂き、熱意が伝わってきました。また、 今回のセミナー中には、ボランティアスタッフが司 会進行に大活躍しました。みなさまのご参加にあら ためまして厚くお礼申し上げます。



【JAMT オンラインがんセミナー医療翻訳 Q&A】

抄読会(オンライン)(2019年度後期抄読会最終回)

日 時: 2020年2月29日(土) 10:00~11:45 (台風のため延期となり Skype 授業)

講 師:原 文堅先生(がん研有明病院 乳腺内科)

論 文: Overall Survival with Palbociclib and Fulvestrant in Advanced Breast Cancer



HR 陽性 /HER2 陰性進行再発乳がんに対するサイクリン依存性キナーゼ4および6(CDK4/6) 阻害薬パルボシクリブ(イブランス)の効果を確認する PALOMA-3 試験の報告について、乳がん診療の基本的な流れ、ホルモン療法の概要、転移再発乳がんの治療、パルボシクリブの作用機序についてわかりやすく説明していただきました。

JAMT特別セミナー

日 時: 2021 年 1 月 16 日 (土) 14:00~16:00 講 師: 清水研先生(がん研有明病院 腫瘍精神科)

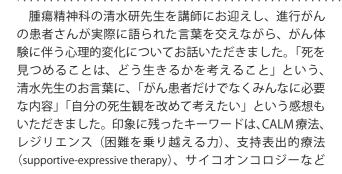
テーマ:「サイコオンコロジー」

がん体験に伴う心理変化〜絶望とレジリエンス〜

CALM therapy 〜患者が死をみつめるプロセスを援助するための精神療法〜

抄読会: Managing Cancer and Living Meaningfully (CALM): A Randomized Controlled Trial of a

Psychological Intervention for Patients With Advanced Cancer



が挙がっていました。

抄読会では、進行がんの患者を対象としたセラピーの 効果を見る臨床試験に関する論文について、解説してい ただきました。「心のケアに科学的な裏付けがあることを 知った」など、難しいけれど勉強になったという声が多 く寄せられていました。懇親会でもさらに熱心な質問が 続きました。日本のみならずアメリカからの参加もあっ たため、セラピーに対する日米での捉え方の違いや、日 本における保険適用に関する質問などもありました。

字幕翻訳勉強会(オンライン)

日 時:【基本編】2020年10月31日(土)9:30~11:30 【実践編】2020年11月21日(土)9:30~11:30

講 師:寺田真由美先生(JAMT 字幕指導・映像翻訳者)

課 題: Driving Discovery (NCI)





JAMT でボランティア翻訳を始めて 10 年近くになりますが、今回初めて字幕翻訳勉強会に参加しました。

寺田先生の講義はとてもわかりやすくて勉強になりました。初回は基本的なルールとソフトの使い方など実例をあげて説明していただき、2回目は課題を提出して検討するというものでしたが、皆さんの字幕があまりにもさまざまで驚きました。課題の字幕をチームとしてまとめようということで、先生が説明しながら作成してくださいました。どの説明も納得することばかりで、自分の訳語選びにも多くの反省点が見つかりました。また、字幕と吹替も性質が異なることを初めて知りました。字幕

翻訳には通訳的な要素があるのも納得しました。瞬発力のない私にはやはり難しいと思いましたが、JAMTでやるのは楽しそうですね。

今回の勉強会では、英国在住のため普通なら会えない日本の方々や、ドイツやアメリカ在住の方々とも時間を共有できて、すばらしいと思いました。今年はひとりで細々と翻訳しているという感覚が一気に吹き飛ぶ感じで、こういう熱意のある皆さんと一緒にやってるんだと思えて嬉しかったです。ありがとうございました。

(ボランティア翻訳者・スタッフ 佐治京子)



監修者を続けて

京都医療センター放射線治療科 河村 光栄先生

コロナ禍の中、皆様いかがお過ごしでしょうか。 色々な行事がなくなり、外食もできなくなり、患者 さんにもリストラされた方がでてきたり、と暗い ニュースが多く、精神的には厳しい日々が過ぎてい きますね。「よかったことさがし」で、少しでもいい ことをみつけ、元気に患者さんと接することができ たらと思います。

さて、監修についてですが、気づけば早いもので、もう7年目になります。医師のキャリアとしては、和歌山で研修医2年、倉敷で修練医4年、大学院4年、その後現在のところに異動して3年になります。学生のころから翻訳の仕事には興味があったのですが、あまりご縁がなく、大学院の時にJAMTを知り参加させていただきました。3年前に就職してからは、繋忙期に重なると少し返信が遅くなって担当者にご迷惑をかけていますが、まあまあこなせているかなあという感じです。患者さんのためというよりはむしろ自分のためにさせていただいています。学生の暇なときに知っていたらなあと後悔していたので、今回、部活(ESS)の後輩学生に紹介させてもらい、参加

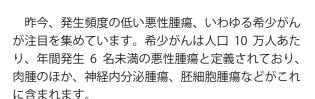
してくれることになりました。最近のうれしかったことの一つです。

キャリア形成の中で、専門医、放射線取扱主任者 1 種、学位と一通り終わり(一発でとれたのは一つもありません…)、最近、学会発表(+論文投稿)も続けた方がいいなあとしみじみ実感しています。大学院では、頭頸部癌で 3 本書いたのですが、去年から、肺癌のイミフィンジの波に乗り、肺癌に転向しています。指導医の先生が、放射線治療は各科の何十年でとのパラダイムシフトが全部経験できるから面白い、といっていましたが、その通りだと思います。大学にいたら専門分野がありますが、野におりると診断科と同じで全身対象なので、勉強しなければいけないことは増えますが、勉強時間は減るということになります。その中でも 1 年に 1 回発表するという ルマを自分に課して勉強することは自分の糧になります。可能な限り続けていきたいと思っています。

以上、簡単ですが近況でした。引き続きどうぞよ ろしくお願いいたします。

希少がんである肉腫を取り巻く問題と JAMT の貢献

九州大学整形外科 遠藤 誠先生



この疾患希少性に起因する問題として、診断や治療に関する情報および経験の不足、新規治療開発の遅れ、医療へのアクセスの制限などが挙げられます。患者さんおよび医療従事者の情報や経験の不足は、受診・診断の遅れや誤診の原因となりえる重大な問題です。当然のことながら、希少がんは悪性腫瘍であり、早期診断および早期治療開始が望まれます。病院ホームページなどのさまざまなメディアを通じて、患者さん向け



に疾患情報の提供を行うなどの試みがなされています。

また、同じく情報不足に起因する問題として、患者さんがどこの医療機関のどの先生を受診してよいかわからず、いわゆる"がん難民"になってしまうリスクが高いことが知られています。こちらに関しても、例えば日本整形外科学会ではホームページで肉腫の専門施設の紹介を行うなどの取り組みが行われています。また、国立がん研究センターでは希少がんセンターが、いくつかの大学病院やがん専門治療施設ではサルコーマセンターが設置され、希少がん患者さん、肉腫患者さんの相談・紹介窓口としての機能を果たしています。

私は JAMT のみなさまとお仕事させていただき、おもに肉腫に関する記事翻訳の監修をお手伝いさせてい

ただいております。翻訳記事の多くはFDA ニュースや NCI の記事であり、患者さん向けというよりも、どちらかというと医療従事者向けに新規承認薬や臨床試験の最新の結果に関するものが大半を占めています。それらの多くは医療従事者にとって大変有用であり、例えば、FDA で承認された薬剤に関して、本邦でも使用できるようにするために、企業に国内治験を持ちかけたり、医師主導治験を計画するきっかけになっています。希少がんでは市場規模の問題があり、企業から積極的に新規薬剤開発の話が進むことは多くありません。医療従事者側から働きかけないといけないことも

多く、そんな時に JAMT の翻訳記事はとても有用な最新情報へのアクセス手段となっています。

JAMTの翻訳記事はタイムリーかつスピーディーであり、患者さんのみならず、私たち医療従事にとっても、大変有用です。将来的な新規治療開発につながる可能性のある大変意義深いものですから、ぜひ今後とも継続をお願いしたいと思っております。またチームの一員として一緒にお仕事できることを大変嬉しく思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

肺がん治療進歩への期待と JAMT

神鋼記念病院 呼吸器内科 稲尾 崇先生



いつも大変お世話になっております。

私は 2017年夏に JAMTの翻訳監修者に登録していただきました卒後10年目の呼吸器内科医です。普段は神戸市の病院で肺がんをはじめ呼吸器疾患を全般的に診療しております。研修医時代に奈良県の天理よろづ相談所病院でご指導いただいた現・福島県立医科大学の東光久先生よりお誘いをいただき、肺がん領域に携わっております。

肺がんは長らく治療成績が振るわない状況でしたが、18年前に分子標的薬がはじめて上市されEGFR遺伝子異常を認める患者さんの光となりました。その後、各種の遺伝子異常に対する分子標的治療薬が研究・発売されました。一方で最近では免疫チェックポイント阻害薬が登場し、遺伝子異常を認めない肺がんの治療効果についても変革期を迎えています。さらには治療薬の選択肢が限られていた悪性胸膜中皮腫についても免疫チェックポイント阻害剤の効果が注目されています。

インターネットなどを通じて以前より素早くエビデンスに触れられる時代となり、肺がんをもつ患者さんやそのご家族からは、治療の進歩に対する期待の高ま

りを感じています。JAMTの仕事の機会をいただいたことで、自分が診る患者さんだけでなく、各地の患者さんに良質な情報をお届けする一端を担えることを、大変光栄に思っております。また私自身、海外がん医療情報リファレンスを見て以前のものから最新のものまで幅広い知見をもとに、より伝わる説明ができるようになったように思います。様々な情報を纏めてこられた JAMT の皆様には心より感謝とで尊敬を申し上げます。

本年は COVID-19 の情勢により、入院中の患者さん・ご家族への説明機会を減らさざるを得なくなったり、面会中止となっている患者さんの精神面が気にかかったりする状況となってしまいました。その中でも世界ではがん治療のエビデンスが刻々と築かれる状況にあり、患者さんの科学的情報へのアクセスをスムーズにする JAMT の役割はこれから益々大きくなるものと存じます。末筆ながら、皆様のさらなるご発展を祈念しますとともに、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Testing Treatments「治療を検査する 日本語版 PDF」ウェブ公開



コクランジャパンより、『治療を検査する(日本語版)pdf』が公開されました。本書は、ある治療の効果があるか、または有益かどうかを検証することの必要性と、その方法としての系統的レビュー(システマティックレビュー)の重要性を、具体的な過去の悲劇を挙げながら解説しています。エビデンスに基づく医療の啓発ツールとして世界中でたくさんの言語に翻訳されてきました。このたび日本語版が完成、公開されました。JAMTも翻訳協力に参加しています。医療の本質を知る啓発本として、ぜひご一読ください。

「治療を検査する 日本語版 PDF」https://jp.testingtreatments.org/book/

5. 翻訳者から

医療情報の発信に責任と誇りを持って 河合 加奈

私は4年間程大学病院で治験コーディネーター(CRC) として勤務した後、現在は大学院に進学し公衆衛生学を 学んでいます。

JAMT との出会いは、CRCとして自分の担当試験の治験 薬について調べた際、海外がん医療情報リファレンスの ホームページにたどり着いたことがきっかけです。自分 自身の学習や情報収集をしながら、それらが翻訳文とし て他の人の役にも立つのであれば、ぜひ JAMT の活動に 参加したいと思い、ボランティア翻訳者に応募させてい ただきました。

方に悩むことも多くありますが、監修の先生方や各記事の 担当者の皆様からいつも丁寧なフィードバックをいただ き、非常に勉強になっております。ありがとうございます。

CRC をしていたときから感じていましたが、医療情報

翻訳は専門的に学んだ経験がほとんどなく、訳出の仕

を伝え、それを受け取った相手に正しく理解してもらう のは、とても難しいことだと思います。Covid-19 のパ ンデミックにより、医療情報やそのリテラシーに関する 事柄にも、大きな変化があったことと思います。医療に 関わる者として、JAMT に関わる者として、医療情報を 発信することに責任と誇りを持って今後も活動していき たいと日々感じています。

コロナ禍で不便なことも多いですが、今年はオンライ ンのがんセミナーや字幕勉強会に参加させていただいた ことが大きな実りでした。日本全国のみならず世界中か ら参加された皆様に画面上ですがお会いすることがで き、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。今 後とも JAMT の活動の一助となれるよう努めてまいりま すので、引き続きよろしくお願いいたします。

日本と世界のがんコミュニティをつなぐ

今年は、誰にとっても思いがけない一年となったので はないでしょうか。私にとっては JAMT の海外がん情報 リファレンスを中心とする翻訳のお手伝いを始めた年と なりました。

アメリカのがんゲノム医療・研究事業を支援する仕事 に関わっていたので、海外の最新がん治療や臨床試験に ついて聞かれることがありました。様々な情報にインター ネットなどからアクセスできますが、どの情報が最新で、 自分にあてはまり、正しいのかという判断は容易ではあ りません。こうして、JAMT にてお手伝いをさせて頂くこ とになりました。

記事の背景となる情報を探すうちに、素晴らしい日本 のがんコミュニティ、学会、患者(支援)団体、病院、大学、 がん研究機関、企業などがあることを知りました。JAMT の活動は、今後の可能性についても考える機会となって います。医師と患者さんが共により良い治療を選択し、 研究者が患者さん・市民も含めてがん研究開発を進め、

為石 万里子

患者さんやご家族を支援し、がんコミュニティを発展さ せ、そして日本から世界のがんコミュニティへ発信して いくには、さらに何ができるだろうと思いを巡せるよう になりました。

そんな中、JAMT オンラインがんセミナーを通じて、各 分野の先生から最新のがん研究・治療について学び、 JAMT コミュニティとつながる機会を頂きました。私はア メリカからの参加でしたが、日本はもとより、様々な国 から JAMT の活動に参加されている方ともお目にかかる ことができました。

改めて、情報は患者さんやご家族の希望となり、コミュ ニティは情報や人をつなぎ、進化への大きな力になると 実感しました。パンデミックにより、多くの困難もあり ますが、さらに進化できるということを目の当たりにし ました。今後も、進化する JAMT の活動をお手伝いでき ればと願っております。

JAMT への参加で自分自身が救われています

佐々木 甲衣子

わたしは 2012 年から JAMT の翻訳活動に参加させてい ただいています。きっかけは父をがんで亡くした経験で した。当時はインターネットも今ほど普及しておらず、 PET もごく限られた施設にしかない時代で、切除できな い状況のがんに対してどのような治療があるかという新 しい情報をなかなか得ることができませんでした。それ まで薬剤師として医療に携わっていたのですが、最終的 にターミナルケアを選択した父に対して自分が出来るこ

2020年に公開された動画





がん研究開発を加速する





臨床試験参加の費用





臨床試験に参加する?

とに限界を感じ、苦悩した時期がありました。父の他界後、 JAMT の活動と「海外がん医療情報リファレンス」のサイト を知り、すぐにトライアルに申込みました。

東日本大震災や、自身に脊髄腫瘍が見つかり手術を余儀なくされる、また、今年は世界的な新型コロナウイルスの蔓延でさまざまな状況変化を経験しましたが、JAMTへの参加を通じ多くの方々と関われていることにより自分自身が救われている面が多々あります。わたしは仙台を活動拠点としておりますが、オンライン会議ツールの普及により、さらに勉強会などにも参加しやすくなりました。

「海外がん医療情報リファレンス」の記事は、専門の 先生方に監修され質が高く、また、コクランなど外部機 関との連携力も多岐に渡りすばらしいと思います。現在 は、がん治療もかなり進み、緩和医療に関する概念も大 きく変わってきました。それでも、がんと診断され悲し みや不安を抱える方は多いでしょう。がんに対し不安を 抱える人に情報が正しく届くことが、納得して治療を受 ける助けになると信じています。できることに限りはあ りますが、さらに学びを深めながら今後も活動に参加さ せていただきたいと思っております。

6. 副理事長から

社会変容と新たな時代へのミューテーション

副理事長 野中 希



2020年は、コロナに始まり、コロナに終わった年となりました。パンデミックにより、これまで想像もしていなかった社会の変化が訪れ、2021年になった現在も日本では感染者最多が続いています。医療者のみなさまには心からの感謝と支援の気持ちをお伝えしたく思います。といいましても、実際に形にすることもお手伝いすることもできず、もどかしい限りです。プライベートでも今年は波乱があり、嵐に見舞われたかのような激しい一年でした。皆様の手助けとご協力によりJAMTの活動が無事継続できましたことを深謝いたします。

前代未聞のコロナ禍においても、嬉しい一面はありました。社会はこの苦難にも適応し前進することがわかったのは大きな幸いでした。在宅勤務が定着し、学会や会議も現地に行かずとも自宅 PC から参加できました。JAMT も 7 月に記念すべき初のオンラインセミナーを開催し、監修の先生方とボランティア翻訳者・スタッフー同が一処に集うことが初めて実現しました。

世界中から、お一人お一人と顔を合わせ、声を聞けたことは私には何にも代えられない賜物となりました。

IT 環境についていえば、AI 翻訳 / 通訳の進化も然りです。あらゆるデバイスで音声(通訳)や翻訳機能が付加され、質も驚くほど向上しています。すでに、英語のサイトページは自動の日本語変換でほぼ遜色なく読め、ネットサーフィンもできます。言語の障壁なくネット情報をとれるとしたら、今後、がん患者さんや一般の方々に一層必要なのはと考えたとき、正しい医療情報ソースを知ること、つまり教育や啓発であろうと考えます。2006 年がん対策基本法以来、日本のがん治療や医療制度は大きく前進しましたが、いまだ PPI(患者・市民参画)

は始まったばかりで、実際に、医療リテラシーの向上や リサーチ・アドボケート育成のための教育ツールや制度 に関しては遅々として進まなかったことが思い残されま す。今後、是非進めていただきたい課題の一つです。

『海外がん医療情報リファレンス』サイト運営においてもコロナの影響を受けました。日本でがん患者さんに向けた新型コロナに関する情報が少なかったことから、3月、「Covid-19情報リンク集」を作成しました。他所の Covid-19 ボランティア翻訳協力にも参加しました。

コロナ情報に押されて、海外の情報ソースではがん関連ニュースが減少し、当サイトでの公開記事も大幅に減りました。世界の混乱は容易に想像できますが、がん研究や薬剤開発まで遅延や中止といったことがないよう祈るばかりです。

喜ばしいことに、がん患者会への協力は今年さらに活発になりました。3月より毎月、国際脳腫瘍ネットワーク(IBTA)e-Newsの和訳、ならびに患者権利憲章、国際患者サーベイの翻訳を、日本の複数のがんの患者会に提供しました。私が欧州臨床腫瘍学会(ESMO)で知り合って以来、念願だった国際腎がん連合(IKCC)患者サミットへの日本からの参加も、2020年ようやくオンラインで叶いました。いずれも大変喜んでくださっています。

もう一つ、コクランジャパンの要請を受け、数年前に協力しました「治療を検査する」(Testing Treatment)PDF が公開されましたので是非ご一読ください。

近年がん領域では"ミューテーション"(遺伝子変異)は馴染みのある言葉になりましたが、この言葉は、2020年天空における一大イベントとしても騒がれました。12月22日から、公転周期の長い木星と土星が重なって見え、



臨床試験におけるランダム化



僕の病院を紹介します



がん生存率の最新情報 ~知って



大腸がん検診ってどんなもの?



希少がんの統計 ~知っています か?~



NCI-CONNECT 脳脊椎 希少が んネットワーク

南西の空に大きくオレンジがかった木星と少し小さな土星を、私も肉眼で見ました(国立天文台サイトでも確認できます)。占星学上、今回の星の合は250年ぶりの地から風への時代の変換点(ミューテーション)といわれており、これまでの物質社会から、ITや技術、共有、個人、見えないものに価値観が移っていくそうです。非科学的

なお話ではありますが、ヒントもあるかもしれません。いまだ先が見えず混沌とした現実のなか、新しい未来に、しなやかさをもって、JAMTの活動ならびに社会への対応を見極めていきたいと思います。次年度はワクチンが功を奏し、社会全体が落ち着きを取り戻しますよう願っています。

7. スタッフから(順不同)

FDA ニュース担当:木村素子

医療だけでなく、社会全体が以前とは異なった厳しい状況となっている中、変わらずご協力くださっている監修の先生方や翻訳者の皆様、スタッフの方々に改めて感謝いたします。サイトで公開される FDA 承認薬に関する情報の質を高めていきたいと思います。

医療ニュース担当:山田登志子

今年度から JAMTでも機械翻訳 DeepL の使用が推奨されるようになりましたが、AI の技術には驚くばかりです。その一方で、新型コロナウイルスという自然の猛威に世界中が襲われ、良くも悪くも数年先の予測が難しい世の中ですが、日々大切に過ごしたいと思います。

学会ニュース担当:青山真佐枝

翻訳者の皆様、監修の先生方、およびスタッフの皆様、いつもご協力ご指導をいただきありがとうございます。JAMTの活動を通して、いただいた記事の正確かつ有意義な情報を少しでも多くの人々にお届けできる一助になればと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

大学・施設ニュース担当:福原真吾

今年度からスタッフを担当させて頂いて おります。翻訳者の皆様、監修の先生方、 いつもご協力いただき大変ありがとうござ います。メンバーの皆様の熱意に刺激を受 けております。今後ともよろしくお願い致 します。



NCI(ブログその他の公的記事): 林さやか

みなさま、いつもご協力下さいまして誠にありがとうございます。以前ある方がこう仰いました。「医療を受ける側も正しい情報と知識をもってよりよい医療にしていきましょう」本当にその通りだなと思って日々過ごしています。

NCI 薬剤情報担当:張知子

昨年に引き続き NCI の薬剤情報を担当しています。翻訳にご協力いただいた方々に感謝申し上げます。今後も新薬や適応追加などの薬剤情報を正確に提供できるよう努めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

動画担当:平沢沙枝

2020年4月から動画担当になりました。 海外ドラマが好きで、もともと字幕にとて も興味があり、毎回楽しく作業をしていま す。動画翻訳にチャレンジしたい!と言う 人が増えたら嬉しいです。今後ともよろし くお願いいたします。

コクラン担当:佐治京子

本年も皆様にご協力いただきありがとう ございました。初めてだったGoogleドキュ メントによる作業にも少しずつ慣れてきま した。今後も JAMT の活動を通して良質な 情報をわかりやすい言葉で届ける努力をし ていきたいと思っています。

コクラン担当:大澤朋子

一時休止となったコクランですが、再開でき感慨深い年となりました。翻訳者の皆さま、監修の先生方、お忙しい中のご協力を大変ありがとうございました。感染収束までどうぞご自愛くださいませ。

外部協力担当:相澤里咲

2020年初めて翻訳者ではなくスタッフとしてお仕事をさせていただきました。正直何も分からないまま始めましたが、ご協力くださった翻訳者様達のおかげで、英国発信の脳腫瘍ニュースを毎月国内へ届けることができました。本当にありがとうございました。

メルマガ (ダイジェスト) 担当: 重森玲子

がんリファ、コクランのサイトに掲載された新着記事をメルマガとして読者の皆様に配信しています(配信頻度は2週間ごと)。2020年から、通常の記事とあわせて、新型コロナウイルス感染症に関する情報も掲載しております。メルマガは、翻訳者の方々、監修の先生方、スタッフの方々など皆さまのおかげで配信できるものです。皆さまに感謝!

SNS 担当:白石里香

フェイスブックとツイッターのJAMTアカウントに毎週投稿しています。セミナーや勉強会などのJAMT活動の告知や報告をはじめ、がんリファより記事やコクラン翻訳、NCI動画を選んで紹介しています。ぜひ「フォロー」と「いいね!」をよろしくお願いいたします。

タイトルチェック(CC、学会ニュース、FDA/ 安全性情報)・投稿統括:

野中希、佐々木真理

事務局スタッフ

運営統括 / 野中 希 事 務 局 / 川見 佐知 会 計 / 鳥居 美映子 収益部門 翻訳コーディネーター / 鳥居塚 千恵

■注目のキーワード■ ~いくつ知っていますか~

exceptional responder	例外的奏効例、例外的奏効症例、エクセプショナル・レスポンダー。 治療が例外的に著効した患者において、腫瘍のゲノムを解析し将来に役立てる。 https://www.cancerit.jp/67746.html
oligometa	オリゴメタ、微小転移。少数の遠隔転移(個数の定義は試験ごとに異なる) を有する固形がんの病態。今まで転移部位は局所治療の対象でなかったが、 少数の場合、局所治療追加の意義が報告され始めている。 https://www.cancerit.jp/67406.html
BRCAness	BRCA 機能不全状態、DNA 相同組換え修復の機能不全。 ★(BRCA) Deleterious:病的変異、Suspected deleterious:病的変異疑い
breast density	乳腺濃度 dense breast は高濃度乳房
marrow complete response	(白血病・MDS)「骨髄寛解」という用語があるので、complete を訳す必要はない。 http://www.cancerit.jp/67913.html ○(血液学的) 完全寛解 (complete response [CR]) ⇒骨髄中芽球が 5% 以下になり、末梢血所見も正常化した状態。 MDS の治療において CR 達成はかなり難しいので、緩めた基準として ○骨髄寛解、骨髄 CR(marrow CR) ⇒骨髄中芽球が 50% 以上減少し、5% 以下、末梢血所見は問わない。

■ FDA 承認ニュース ■

	FDA が BCG 不応高リスク筋層非浸潤膀胱がんにペムブロリズマブを承認		
2020年1月 FDA が希少変異を有する消化管間質腫瘍にアバプリチニブを承認			
	FDA が進行類上皮肉腫にタゼメトスタットを承認		
2月	FDA が転移 HER2 陽性乳がんにネラチニブを承認		
	FDA が多発性骨髄腫にイサツキシマブを承認		
3月	FDA が肝細胞がんの 2 次治療にニボ+イピ併用を承認		
	FDA が進展型小細胞肺がんにデュルバルマブを承認		
	FDA が骨髄異形成症候群の貧血にラスパテルセプトを承認		
	FDA が転移のある BRAF 変異大腸がんにエンコラフェニブ + セツキシマブを承認		
	FDAが低悪性度上部尿路上皮がんにマイトマイシンを承認		
	FDA が HER2 陽性転移乳がんにツカチニブを承認		
4月	FDAがFGFR2再構成/融合胆管がんにペミガチニブを迅速承認		
	FDA が慢性リンパ性白血病 にイブルチニブ + リツキシマブを承認		
	FDA が転移トリネガ乳がんにサシツズマブ ゴビテカンを迅速承認		
	FDA がペムブロリズマブの新たな投与レジメンを承認		
	FDAが進行卵巣がんの初回維持療法にニラパリブを承認		
	FDA が多発性骨髄腫にダラツムマブとヒアルロニダーゼの合剤を承認		
	FDAが多発性背髄腫にクラクスマクととアルロニターとの目前を承認		
	卵巣がん、卵管がん、腹膜がんにオラパリブ+ベバシズマブの適応拡大		
	RET 変異または融合遺伝子を有する肺がんおよび甲状腺がんに Selpercatinib を承認		
	FDA がカポジ肉腫にポマリドミドを迅速承認		
	FDAがカホン内腫にホャットミトを迅速承認 FDAが転移非小細胞肺がんの初回治療にニボルマブ+イピリムマブを承認		
	FDA が進行消化管間質腫瘍(GIST)に ripretinib 承認		
5月	FDAが足り月に目間負煙場(GIST)に「IPIECIIIID 承認 FDAが BRCA 変異陽性の転移性去勢抵抗性前立腺がんにルカパリブを承認		
	FDAが BRCA 复異個性の転移性な男態がほかがんにアテゾリズマブを承認		
	FDAが FD-LT 高光院の転移性弁が細胞がかんにケテックスマックを承認 FDAが HRR 遺伝子変異陽性の転移性去勢抵抗性前立腺がんにオラパリブを承認		
	FDAがTIKK 園園)		
	FDAが ALK 陽性の転移非小細胞肺がんにブリガチニブを承認		
	FDA が転移非小細胞性肺がんの初回治療としてニボ + イピ + 化学療法併用を承認		
	転移非小細胞肺がんの初回治療にラムシルマブ+エルロチニブを承認		
	FDAが食道扁平上皮がんにニボルマブを承認		
	FDAが転移小細胞肺がんに lurbinectedin を迅速承認		
	FDA が腫瘍遺伝子変異量の高い(TMB-H)成人/小児の固形がんにペムブロリズマブを承認		
	FDA が小児の CD33 陽性、急性骨髄性白血病にゲムツズマブオゾガマイシンを承認		
6月	FDAが濾胞性リンパ腫にタゼメトスタットを迅速承認		
07	FDAが再発・難治性びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に selinexor を承認		
	FDAが層扁平上皮がんにペムブロリズマブを承認		
	FDA が医療従事者による在宅投与可能な HER2 乳がんの皮下注射剤 Phesgo を承認		
	尿路上皮がんの維持療法にアベルマブを承認		
	FDA が切除不能な大腸がんの初回治療にペムブロリズマブ(キイトルーダ)を承認		
	FDA が骨髄異形成症候群にデシタビンとセダズリジンの経口配合剤を承認		
	FDAが骨髄炎が成症候群にアクタピンとピタスクタンの経口配合剤を承認 FDAが再発・難治性マントル細胞リンパ腫に brexucabtagene autoleucel を承認		
7月	FDA が発光・無治性マンドル細胞サンハ腫に brexdcabtagene autoledcer を承認 FDA が難治性リンパ腫に初の CAR-T 細胞療法薬を承認		
	FDAが無治にサンバ腫に初めてAR-T細胞療法条を承認 FDAがBRAF V600変異陽性メラノーマにアテゾリズマブを含む3剤併用療法を承認		
	FDA がびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫にタファシタマブを迅速承認 FDA が多発性骨髄腫にベランタマブ・マフォドチンを承認		
8月	FDA が多先性骨髄煙にベランダマフ・マフォトデンを承認 FDA が急性骨髄性白血病にアザシチジンを承認		
9月	FDA が思性骨髄性日血病にアックテクノを承認 FDA が RET 融合遺伝子を有する肺がんにプラルセチニブを承認		
	FDAがREI配合遺伝子を有する肌がんにノブルセデニノを承認 FDAが悪性胸膜中皮腫の一次治療にニボ + イピ併用を承認		
	FDA が悪性胸膜中反腫の一次治療に二ホキュと併用を承認 FDA が古典的ホジキンリンパ腫にペムブロリズマブを拡大承認		
10月	FDA が自興的ホシャンリンバ腫にベムノロリスマンを拡入承認 FDA が急性骨髄性白血病にベネトクラクス併用療法を正式承認		
	FDA が思性骨髄性日血病にベイトグラグス併用療法を正式承認 FDA が固形腫瘍の NTRK 融合遺伝子の特定に FoundationOne CDx 診断検査を承認		
11月	FDA が固形腫瘍のNTRK 融合遺伝子の特定に Foundation One CDX 診断検査を承認 FDA が局所再発切除不能または転移トリネガ乳がんにペムブロリズマブを迅速承認		
	FDA が局所再完切除不能または転移ドリネガ乳がんにヘムプロリスマブを迅速承認 FDA が骨または骨髄の高リスク神経芽腫に naxitamab を迅速承認		
	FDA が育または背髄の高り入り神経牙腫に naxitalinal を迅速承認 FDA が前立腺がんに初の PSMA 標的 PET 画像診断薬を承認		
12月	FDA が削立脉がんに初の PSMA 標的 PET 画像診断条を承認 FDA が RET 遺伝子変異を有する甲状腺髄様がんにプラルセチニブを承認		
	FDAがRET 退位士を其を行りる中仏脉髄像がんにフラルセチュノを承認 FDAが転移 HER2 陽性乳がんにマルゲツキシマブを承認		
	FDAが戦物のERZ機関はおかんにマルケッキンマッを承認		
	101177年以上の大学の大学の		

2020年4月	FDA が COVID-19 緊急時下での臨床試験実施に関する FDA ガイダンス(更新)
2020年8月	FDA が COVID-19 の有望な治療法として回復期血漿の緊急使用を許可
2020年9月	│ FDA が乳がんに対するパクリタキセル+アテゾリズマブ併用の有効性と安全性について、FDA が注意喚起

8. 事務局からのお知らせ

(事務局 office@jamt-cancer.org)

- ●2020 年 会計報告(1月~12月)は JAMTオフィシャルサイトへ3月中に掲載予定です。
- ●2021年1月、新型コロナによる諸般の状況変化に対応し、事務所を移転しました。
- ●コロナによる緊急事態宣言等により、在宅勤務を中心としています。ご不便をおかけすることもございますが、何卒ご理解いただけますようよろしくお願いいたします。

2021 年度継続年会費 お手続きのお願い

次年度は 2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日となります。

会員資格につきましてはJAMTオフィシャルサイト「JAMTを支援する」→「会員登録と寄付」をご確認いただき、 2021 年 3 月 25 日までに会費をお振込みください。

■ボランティア翻訳者 (賛助会員):継続年会費 4,000円 (がん患者ご本人は半額)

■個人正会員:年会費 10,000円 ■個人賛助会員:年会費 5,000円

■法人正会員:年会費 100,000 円 ■法人賛助会員:年会費 30,000 円

【お振込先】 他金融機関からのお振込み

ゆうちょ銀行から [店名]〇〇八(読みゼロセロハチ)

[記号] 10030 [店番] 008

[名義] 一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ [口座番号] 7850539

[名義] 一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ

[預金種目] 普通預金

【クレジットカード決済】JAMTサイトの「JAMTを支援する」➡「決済フォーム」もご利用ください。

* 退会・休会をご希望の場合は、その旨必ずメールで事務局までご連絡をお願いします。 引き続き、みなさまのお力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

9.組織概要

[番号] 78505391

名 称	一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ	
所 在 地	〒163-1030 ^(新住所) 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー N30 階	
連絡先	office@jamt-cancer.org TEL 03-5326-3432	
設立年度	2009年4月1日	
ボランティア翻訳所属メンバー (2021年1月現在)	ボランティア翻訳者:108 名 監修者:58 名	
役員	理 事 長 久保田 馨 医師/日本医科大学付属病院 がん診療センター長 副理事長 野中 希 医療翻訳者 理 事 東 光久 医師/福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー 白河厚生総合病院総合診療科理 事 後藤 悌 医師/国立がん研究センター 呼吸器内科理 事 佐復 純子 医療翻訳者 監 事 久賀田 郁子 著述業 監 事 尾崎 昭子	

(運営サイト)

- ◆ 海外がん医療情報リファレンス https://www.cancerit.jp/
- ◆ JAMT オフィシャルサイト https://jamt-cancer.org/

Twitter · Facebook

- ◆ 海外がん医療情報リファレンス Twitter: cancer_ref Facebook: cancerreference
- ◆ 日本癌医療翻訳アソシエイツ (JAMT)
 Twitter:jamt_cancer Facebook:jamtforcancer
 「フォロー」と「いいね!」をお願いします

10. 広告協賛企業 (順不同)

「海外がん医療情報リファレンス」の運営支援をいただいた企業様に厚く御礼申し上げます。

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

日本化薬株式会社

日本イーライリリー株式会社

小野薬品工業株式会社

MSD 株式会社 中外製薬株式会社 大鵬薬品工業株式会社 第一三共株式会社